©Asian Arts Theatre (Moon So Young)

この作品はいわゆる〈日韓問題〉、つまりいわゆる歴史的なそれということですが、は扱ってません。そして私はこの作品はそのことを、つまりいわゆる〈日韓問題〉を扱わないということを、消極的でない仕方でやれていると思っています。それはこの作品をじゅうぶんな時間をかけ、着実なプロセスを踏んでつくることができたからこそです。そうした環境の実現の助けとなってくださった各組織および個人のかたがたがいてくださったからこそです。そのおかげで、この作品の構想を持ったときよりもずっと豊かな地点に辿り着くことができました。

岡田利規

STAFF

© Nobutaka Sato

作・演出：岡田利規（おかだ・としき）
演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。1973年横浜生まれ。熊本在住。1997年チェルフィッチュを結成。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。2007年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を発表し、翌年第2回大江健三郎賞受賞。2012年より、岸田國士戯曲賞の審査員を務める。著書に演劇論集『遡行　変形していくための演劇論』などがある。2016年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレのレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務めることが決定している。

舞台美術：高嶺 格（たかみね・ただす）
美術家。1968年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学を卒業後、ダムタイプの活動に参加。現在はインスタレーションや映像、写真、パフォーマンスなど、多彩なアプローチのもと、民族や性、自己と他者などさまざまな問題と関わり、新たな関係性や未来を切り開いていくプロセスを作品化している。近年の主な作品に、カタログ販売化した住宅事情への問題提起「Good House, Nice Body ～いい家・よい体」(2010)、フクシマ原発事故後の状況を扱った「高嶺格のクールジャパン」(2012) など。舞台作品の制作・演出、コラボレーションも多数。秋田公立美術大学准教授。

フェスティバル/トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師
	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	荻田 伍	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
副実行委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長
	栗原 葉	豊島区文化商工部長
	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長
委員	尾崎元規	公益社団法人企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問
	熊倉純子	東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授
	斉藤幸博	株式会社資生堂企業文化部長
	鈴木敦子	アサヒビール株式会社経営企画本部社会環境部　部長
	鈴木正美	東京商工会議所豊島支部 会長
	永井多恵子	公益社団法人国際演劇協会日本センター 会長
	小澤弘一	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	岸 正人	公益財団法人とし未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
	小島寛大	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事
監事	鈴木さよ子	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登（骨董通り法律事務所）	

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

ディレクターズコミッティ	
代表	市村作知雄
副代表	小島寛大、河合千佳
メンバー	葦原円花、喜友名織江、十万亜紀子、長原理江、横堀応彦
事務局長	葦原円花
制作	小島寛大、河合千佳 喜友名織江、十万亜紀子、荒川真由子、砂川史織、松嶋瑠奈、松宮俊文、 横井貴子、岡崎由美子、三竿文乃
広報・営業	長原理江、横川京子
経理	望 久美子、谷口美和
総務	平田幸来、蓮池奈緒子、一色壽好
チケットセンター	佐々木由美子、佐藤久美子
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネート	佐々木真青子（株式会社ファクター）
音響コーディネート	相川 晶（有限会社サウンドウィーズ）
アートディレクション＆デザイン	氏家啓雄（有限会社氏家プランニングオフィス）
メインビジュアル	naomi@paris,tokyo
ウェブサイト	竹下雅哉（有限会社氏家プランニングオフィス）
広報	株式会社 フロンティア・エンタープライズ
広報協力	湯川裕子
海外広報・翻訳	ウィリアム・アンドリューズ
物販	渡辺 淳
票券	株式会社ヴォートル
執筆・編集	鈴木理映子
主催	フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区／公益財団法人とし未来文化財団／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、 アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
共催	公益社団法人国際演劇協会日本センター
アジアシリーズ共催	独立行政法人国際交流基金アジアセンター
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
後援	外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
特別協力	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、 株式会社サンシャインシティ、チャコット株式会社
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、 一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、 公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、 特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、ホテルメトロポリタン、 ホテル グランドシティ、池袋ホテル会 株式会社ポスターハウス・カンパニー
宣伝協力	

平成27年度　文化庁　文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業
（池袋/とし未/東京アーツプロジェクト事業、とし未国際アートフェスティバル事業）

公益社団法人企業メセナ協議会　2021芸術・文化による社会創造ファンド採択事業

インターン：浅利瑠璃、穴迫 楓、上原彩加、大野ちはる、大橋桃奈、尾崎夏美、金山咲恵、川縁芽優子、北原七海、久木野実玖、胡 潤、会田桃子、佐藤 凌、鈴木里咲、多田彩華、千葉ゆり、中條 愛、鄧 詩嵐、都丸杏樹、西本万耶、比留間晴子、細井優花、松村亜矢、僅田章子、三友遥菜、山本菜絵、吉田明理、林 嘉琦

スペシャルサンクス：F/Tサポーターのみなさま

会期：2015年10月31日（土）－12月6日（日）

Festival/Tokyo Executive Committee

Advisors:
Man Nomura (Chairman, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations, Noh actor)
Yoshiharu Fukuhara (Honorary Chairman, Shiseido Co., Ltd.)

Honorary President of the Executive Committee:
Yukio Takano, Mayor of Toshima City

Chair of the Executive Committee:
Hitoshi Ogita (Advisor to the Board, Asahi Group Holdings, Ltd.)

Vice Chair of the Executive Committee:
Sachio Ichimura (Director, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ])
Akira Kurihara (Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City)
Akira Tsuzawa (Director of Secretariat of Toshima Future Culture Foundation)

Committee Members:
Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts, Corporate Advisor, Kao Corporation)
Sumiko Kumakura (Professor, Department of Musical Creativity and the Environment, Tokyo University of the Arts)
Yukihiro Saito (General Manager, Corporate Culture Department, Shiseido Co., Ltd.)
Atsuko Suzuki (General Manager, Social & Environmental Department, Asahi Breweries, Ltd.)
Masami Suzuki (Chairman, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima)
Taeko Nagai (Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute [ITI/UNESCO])
Kouichi Ozawa (Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City, Director of Cultural Design Section)
Masato Kishi (Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation)
Naoko Hasuike (Representative, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ])
Hirotomo Kojima (Board Member, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ])

Supervisor:
Sayoko Suzuki (General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City)

Legal Advisors:
Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat

Directors Committee
Representative: Sachio Ichimura
Deputy Representative: Hirotomo Kojima, Chika Kawai
Members: Madoka Ashihara, Orie Kiyuna, Akiko Juman, Rie Nagahara, Masahiko Yokobori

Administrative Director: Madoka Ashihara
Production Co-ordinators: Hirotomo Kojima, Chika Kawai, Orie Kiyuna, Akiko Juman,
Mayuko Arakawa, Shiori Sunagawa, Luna Matsushima, Toshifumi Matsumiya, Takako Yokoi,
Yumiko Okazaki, Ayano Misao
Public Relations, Sales & Planning: Rie Nagahara, Kyoko Yokokawa
Accounting: Kumiko Tsutsumi, Miwa Taniguchi
Administrators: Saki Hirata, Naoko Hasuike, Hisayoshi Isshiki
Ticket Center: Yumiko Sasaki, Kumiko Sato

Technical Director: Eiji Torakawa
Assistant Technical Director: Chizuru Kouno
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Art Direction & Design: Yoshio Ujiie (Ujiie planning office)
Main Graphic Design: naomi@paris,tokyo
Website: Masaya Takeshita (Ujiie planning office)
PR: Frontier Enterprise Co., Ltd.
PR Support: Yuko Yukawa
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Merchandise: Jun Watanabe
Ticket Administration: Votre, Ltd.
Writing & Editing: Rieko Suzuki

Organizers: Festival/Tokyo Executive Committee
Toshima City, Toshima Future Culture Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ)
Arts Council Tokyo & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute
Asia Series co-produced by the Japan Foundation Asia Center
Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.
Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO, J-WAVE 81.3 FM
Special co-operation from SEIBU IKEBUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshine City Corporation, Chacott Co., Ltd.
In co-operation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Ikebukuro Hotel Association
PR Support: Poster Hari's Company

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2015

Supported by Association for Corporate Support of the Arts, Japan
(2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture)

Period: October 31 (Sat) to December 6 (Sun), 2015

発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会
〒170-0001　東京都豊島区西巣鴨4-9-1　にしすがも創造舎
TEL：03-5961-5202　http://www.festival-tokyo.jp/
編集：鈴木理映子、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局　デザイン：小林 剛 (UNA)

※内容は変更になる場合がございます。ご了承ください。 禁無断転載

God Bless Baseball

作・演出：岡田利規
Text, Direction: Toshiki Okada

11.19 Thu －11.29 Sun
あうるすぽっと
Owlspot Theater

Festival//Tokyo

GBBのDTGの役割は――？

金山寿甲（ドラマトゥルク）

“ドラマトゥルク（字数を稼いでいると思われるといけませんので以下略：DTG）”、僕はこの大役を仰せつかりました。さて、このDTGとはなんぞやと調べますと、『DTG（独 Dramaturg）は、演劇カンパニーにおいて戯曲のリサーチや作品制作に関わる役職。』とあります（Wikipedia調べ）。更に検索を掛けますと、“DTG養成講座”なるものも存在しました。つまり、有料講座を受講してでもなりたいと思う人が商売になる程度に存在するという事です。もし僕がこの 講座の講師として呼ばれる事があったら受講者にこう話します。「DTGなんて絶対やりたくないと吹聴しましょう」と。レアケースで恐縮ですが、僕はそうしてDTGになりましたもので。

お前は何者だとお思いの方に少々自己紹介を致しますと、僕は東葛スポーツという演劇カンパニーを主宰しており、作・演出を担当しております。岡田利規さんほどの方ですから職業DTGに依頼する事など容易い事でありましょうが、敢えて僕にこのお話を下さいました。僕が岡田作品のDTGに起用される。この事を本作が野球のお話なので野球に例えますと、草野球の監督（僕）がプロ野球チーム（岡田監督）のヘッドコーチに起用されるといった所でしょうか。田原総一郎が“朝まで生テレビ”などで共産党議員に対し、「共産党はワサビや山椒と一緒なんだから」と説き伏せる事が度々あります。これは共産党批判ではなくエールなのです。言われた共産党議員本人達が浮かべるまんざらでもない表情からもそれは分かります。現共産党は現状の立ち位置からの“薬味役”に徹しているのです（一部のマジな方々は除いて）。

さて、僕は本作『God Bless Baseball（字数を稼いでいると思われるといけませんので以下略：GBB）』に草野球イズムのまま挑みました。荒唐無稽なネタを性懲りもなく送り込み続けました。絶対採用されないであろうと分かっていながらも送り込んでいた節もありました。それを岡田さんはいつもニコニコ見て下さいました。今振り返るとむしろそれこそが僕の目的だった様に思います（そんな事の為にチケット料金の幾許かが僕に回っているとお怒りの方もおられるかもしれませんが）。それもこれも、“ゆるぎない岡田作品”がそこにあるからこそ僕は安心してアマチュアリズムを発揮出来たのだと思います。それは、“ゆるぎない現状”に安心してアンチテーゼを放ち続ける共産党と同じ構図なのかも知れません。蕎麦が美味いからこそ薬味が映えるのです（現政権はちっとも美味くはないですが）。

もし今、開演前のあうるすぽっとの座席にて本文をご覧になっておられましたらどうぞ舞台上をご覧下さい。眼前に浮かぶアレこそがGBBの象徴です。ご覧頂ければお分かりになりますが、アレがアレなのです（そして最後あんな事になります）。そして僕にとってのアレは、いつしか岡田さんの象徴となっていました。岡田さん、僕はGBBの薬味に足り得ていたでしょうか？

かなやま・すがつ
サンプリングやラップなどヒップホップ的手法を用いた作風が特徴の演劇ユニット東葛スポーツの主宰。

旅する作品づくり

イ・ホンイ（翻訳・ドラマトゥルク）

去年の夏に韓国俳優オーディションとリサーチ作業をスタートし、『God Bless Baseball』（以下『GBB』）の本格的なクリエーションが始まったのは今年の1～2月でした。本作品は岡田利規さんにとって初めての日韓共同プロジェクトで、私たちはソウルに集まり、ドキドキしながら作品の方向を決めていきました。ドゥサン・アートセンターでその成果を発表する機会を得たとき、韓国の一部の観客からは厳しい意見もありました。それは「日米韓の関係を描くにあたって、アメリカの影響下にある韓国と日本を同一線上に置くつもりなのか。日韓関係をそのように単純化して良いか」という問題提起でした。結果的には、この問題提起により、「野球」を通して日本・韓国・アメリカを語るというこの作品のテーマがどれほど重いか、私たちが出来ることはどこまでなのか、が明確になった気がします。

その後、今年の夏、今度は日本で稽古をしました。都市から遠く離れた城崎、そして東京とあまり変らない横浜で、今度は韓国の俳優たちが「今の日本」に接することができました。そして、たった2回の上演でしたが、韓国・光州（グァンジュ）での初演を無事に終え、今は東京での上演を準備しています。このように環境を変えながら、稽古と上演を繰り返し、さまざまな人に出会い、会話を交わすことは、きっとこの作品を成長させる最も大切な要因になっているのではないかと思います。

『GBB』は、明らかに「アメリカ」をテーマにしている作品です。もちろん、それは「私たちが見たアメリカ」です。岡田利規さんは、本作品に大きなインスピレーションを与えた作品として、高嶺格さんの美術作品『God Bless America』に言及したことがあります。その作品は粘土で巨大なオブジェを作るプロセスを撮影し編集したものです。その残像の影響があったからでしょうか、私は『GBB』が、まるで彫刻をするようなプロセスで完成した作品だと感じております。岡田利規さんが表現したい世界があって、そのスケッチはリハーサルを重ねるたびに、より鮮明にみんなの頭の中で共有されていきました。私たちは目の前に浮かんでいる像を再現するという目標に向かって、要らない部分を彫って削っていきました。誰か一人でも力を入れすぎたら、ダメになってしまう作業でした。

本作品で、韓国で上演された岡田利規さんの舞台は5作目となりました。しかし韓国の観客を笑わせたり、またすぐ泣かせたりした作品は、おそらくこれが初めてではないかと思います。日本のお客さんはどのようなリアクションをしてくださるのか、とても楽しみにしております。韓国、日本、アメリカ……。客席からの多様なフィードバックが集まったとき、やっと完成する作品だと思うからです。どうか、この作品の旅に楽しい気持ちで参加していただけたらと思っております。

© Korea Arts Management Service

イ・ホンイ
創作集団DIRECTURG42所属。韓国で上演した主な翻訳作品に『살짝 넘어갔다가 얻어맞았다（少しはみ出て殴られた）』、『데리러 와 줘!（来来来来来）』、『히키코모리 밖으로 나왔어（ヒッキー・ソトニデテミターノ）』、『배수의 고도（背水の孤島）』など。ドラマトゥルクとしては、創作オペラ『달이 물로 걸어오듯（月が水面に忍び来るがごとく）』（第2回Edaily文化大賞クラシック部門最優秀作）、『カルメギ』（第50回東亜演劇賞作品賞）などに参加している。

CAST

イ・ユンジェ
1972年生まれ。ソウル芸術大学卒業後に自身の劇団「踊る小人」を立ち上げ、身体劇中心の公演を行なう。2008年に演出家 多田淳之介の『ロミオとジュリエット』をはじめ、同演出家の『かもめ』、鈴木忠志の『エレクトラ』などに参加。演出家ソン・ギウン『小説家クボ氏の1日』に出演後、劇団 第12言語演劇スタジオに所属。

振子びじん（ねじ・びじん）
1980年生まれ、秋田県出身。舞踏で培われた特異な身体性を元に、ソロダンスや振付作品を発表。2011年、横浜ダンスコレクションEX審査員賞、フェスティバル/トーキョー公募プログラムF/Tアワード受賞。2016年、アジアンアーツシアターにて土方巽プロジェクトのキュレーターを務める。

ウィ・ソンヒ
1984年生まれ、テジン大学で哲学を専攻。副専攻で演劇を学び演劇的な言語を探求する劇団で活動。2011年『乾燥された独白』で創作活動をはじめ、劇場や芸術祭など4会場で上演。2013年には身体のイメージをコラージュした『体の場合』を光州のアジア文化マルにて上演。役者のみならずダンサーや振付家としても活動している。

野津あおい（のづ・あおい）
1985年生まれ、東京都出身。2008年『家族の肖像』で劇団サンプルに初出演し、2011年に正式参加。フェスティバル/トーキョーとの関わりとしては、F/T09春で上演された『火の顔』（作：マリウス・フォン・マイエンブルグ／演出：松井周）などへの出演がある。

キャスト/スタッフ

作・演出：岡田利規
翻訳：イ・ホンイ
出演：イ・ユンジェ、振子びじん、ウィ・ソンヒ、野津あおい
舞台美術：高嶺 格
衣装：藤谷香子（FAIFAI）
ドラマトゥルク：金山寿甲（東葛スポーツ）、イ・ホンイ

舞台監督：鈴木康郎、山下 翼
舞台監督助手：湯山千景
照明：木藤 歩
照明オペレーター：シバタユキエ
音響：堤田祐史（WHITELIGHT）
音響オペレーター：安藤政英
映像：須藤崇規
英語翻訳：アヤ・オガワ
日本語字幕協力（英語部分）：長島 確
声：ジェローム・ヤング
字幕オペレーター：大島智衣
宣伝美術：野口路加

記録写真：宇壽山貴久子
記録映像監督：須藤崇規
記録映像撮影：西野正将、遠藤幹大、三上 亮、玄 宇民

制作：中村 茜、黄木多美子、ケティング葉々、兵藤茉衣、河村美帆香（プリコグ）
岡崎由実子、十万亜紀子（フェスティバル/トーキョー）
インターン：興野汐里（プリコグ）
久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、
林 嘉琦（フェスティバル/トーキョー）
フロント運営・制作アシスタント：安部祥子
舞台協力：木下千尋、柳 雄斗、柳生二千翔、竹元 楓、小林峻也
衣装協力：秀島史子、加納豊美

製作：プリコグ、チェルフィッチュ
国際共同製作：Asia Culture Center – Asian Arts Theatre、
フェスティバル/トーキョー、Taipei Arts Festival
国際共同製作賛助：FringeArts, Philadelphia; Japan Society, New York;
Museum of Contemporary Art Chicago;
The Clarice Smith Performing Arts Center at the University of Maryland;
Wexner Center for the Arts at The Ohio State University
リサーチ・ワークショップサポート：Doosan Art Center
協力：城崎国際アートセンター、急な坂スタジオ、サンプル
主催：フェスティバル/トーキョー

Asia Culture Center – Asian Arts Theatre　委嘱作品

Cast & Creative Team

Text, Direction: Toshiki Okada
Translation, Interpretation: Hongyie Lee
Cast: Yoonjae Lee, Pijin Neji, Sunghee Wi, Aoi Nozu
Stage Design: Tadasu Takamine
Costumes: Kyoko Fujitani (FAIFAI)
Dramaturges: Sugatsu Kanayama (Tokatsu Sports), Hongyie Lee

Stage Managers: Koro Suzuki, Tsubasa Yamashita
Stage Assistant: Chikage Yuyama
Lighting: Ayumi Kito
Lighting Operator: Yukie Shibata
Sound: Yuji Tsutsumida (WHITELIGHT)
Sound Operator: Masahide Ando
Video Director: Takaki Sudo
English Translation: Aya Ogawa
Japanese Surtitles (from English): Kaku Nagashima
Voice: Jerome Young
Surtitles Operator: Tomoe Ohshima
Publicity Design: Ruka Noguchi

Photography: Kikuko Usuyama
Video Documentation Director: Takaki Sudo
Video Documentation: Masanobu Nishino, Mikihiro Endo, Ryo Mikami,
Woomin Hyun

Production Co-ordination: Akane Nakamura, Tamiko Ouki, Nana Koetting,
Mai Hyodo, Mihoka Kawamura (precog)
Yumiko Okazaki, Akiko Juman (Festival/Tokyo)
Interns: Shiori Kono (precog)
Miku Kukino, Ryo Sato, Risa Suzuki, Anju Tomaru,
Akari Yoshida, Lin Chia Chi (Festival/Tokyo)
Front of House/Production Co-ordination Assistant: Shoko Abe
Backstage Assistants: Chihiro Kinoshita, Yuto Yanagi, Nichika Yagyu,
Kaede Takemoto, Takaya Kobayashi
Costume Assistants: Fumiko Hideshima, Toyomi Kano

Produced by precog, chelfitsch
Co-produced by Asia Culture Center – Asian Arts Theatre,
Festival/Tokyo, Taipei Arts Festival
Additional commissioning support provided by FringeArts, Philadelphia;
Japan Society, New York; Museum of Contemporary Art Chicago;
The Clarice Smith Performing Arts Center at the University of Maryland;
Wexner Center for the Arts at The Ohio State University
Research and workshop supported by Doosan Art Center
In co-operation with Kinosaki International Arts Center,
Steep Slope Studio, Sample
Presented by Festival/Tokyo

Commissioned by Asia Culture Center – Asian Arts Theatre